学　年	教科等	単元名	日　時
第２学年	国語科	読んだ　かんそうを　つたえ合おう（教材：お手紙）	令和５年 11 月１日（水）５校時

研究主題	自律的に学ぶ子どもの育成
研究内容１の手立て	**【子どもが自覚的に問いを解決する学びのプロセスの在り方】** 本時では、サプライズを先に知ったときの気持ちについての事前アンケートの結果を提示し、人物の気持ちとの違いに気付いた発言を引き出すことで、学習計画上の本時の問いを再確認することができるようにする。また、自分が選んだ人物に、手紙や動画等で、人物の行動について具体的に想像したことを伝える時間を設けることで、本時の問いに対する考えを確かにすることができるようにする。
研究内容２の手立て	**【子どもが自ら学習を調整するための学習サイクルの在り方】** 本時では、人物と自分の気持ちとを比べて、人物の行動について具体的に想像したことをまとめている姿を価値付けることで、言葉の力「自分と比べて読む」を自覚することができるようにする。

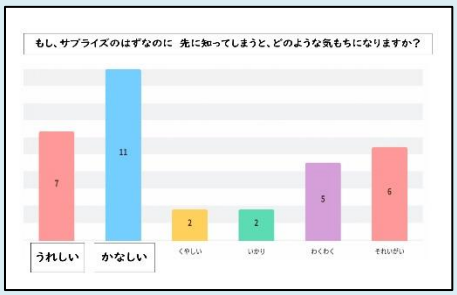
○　子どもの姿からの報告

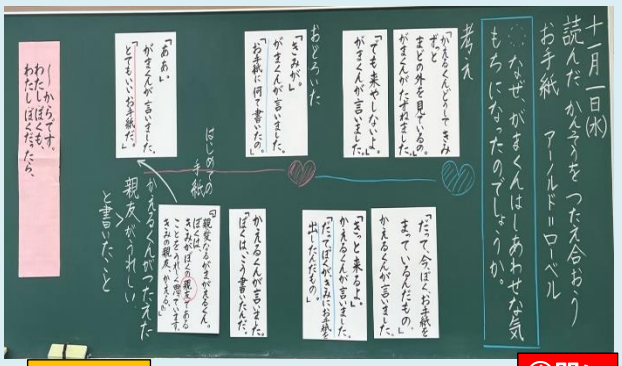
研究内容１：子どもが自覚的に問いを解決する学びのプロセスの在り方

〈問い創りのステップ〉

ステップ１　学習計画上の問い

Ｔ：今日は何について考えますか。
（学習計画に目を向けた子どもの姿を取り上げた後）
Ｃ：なぜ、がまくんが幸せな気持ちになったのか。





ステップ２　内容の大体

Ｔ：第４場面はどのようなお話でしたか。
Ｃ：かえるくんが、がまくんに手紙の内容を話した話。

ステップ３　学級の実態と人物との違い

Ｔ：２年１組のみんなとがまくんとの違いは何ですか。
Ｃ：かえるくんからの手紙の内容を聞いたら、がまくんは幸せな気持ちになったのに、みんなは悲しくなってしまう。

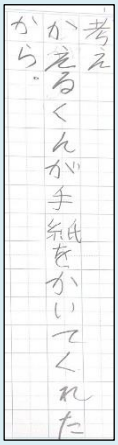
ステップ４　学習計画上の問いの再確認

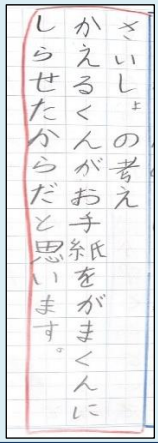
Ｔ：（がまくんが幸せな気持ちになった）理由が自分のなかではっきりしていますか。
Ｃ１：いいお手紙だから。
Ｃ２：よく分からない。
Ｃ３：はっきりしていません。

①問い

なぜ、がまくんは幸せな気持ちになったのでしょうか。

②考え





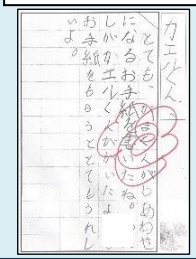
がまくんは、ずっと手紙をもらったことがないけど、親友に手紙をもらえるからうれしいのではないかな。

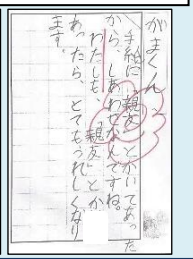
音読や仲間との対話をとおして、問いに対する考えを話し合う姿が見られた。

とてもいいお手紙って書いてあるよ。

③確かな考え

自分が選んだ人物に、手紙や動画をとおして、人物の行動について具体的に想像したことを伝え、本時の問いに対する考えを確かにした。





研究内容２：子どもが自ら学習を調整するための学習サイクルの在り方

④ふりかえり

（子どもの書いた手紙を取り上げた後）
Ｔ：「私だったら…」という言葉を使って、自分と比べて読むことができていますね。

人物と自分の気持ちとを比べて、人物の行動について具体的に想像したことをまとめている姿を価値付けた。

○　考察

研究内容１　子どもの不思議や分からないと思ったことを基に教師が設定した問いを子どもが自覚するために、４つのステップを踏むことにした。今回は、学習計画上の本時の問いを想起したうえで、学級の実態を表すアンケート結果を提示し、人物との違いを明確にすることで、学習計画上の本時の問いを自分事として捉えることができたと考える。しかし、本時の目標が「登場人物の行動を具体的に想像すること」である一方、学習問題（本時の問い）は「なぜ、がまくんは幸せな気持ちになったのだろう。」と人物の気持ちを考えさせようとしていた。子どもの不思議や分からないと思ったことと本時の目標や評価規準との整合性を検討したうえで、学習問題を設定する必要がある。

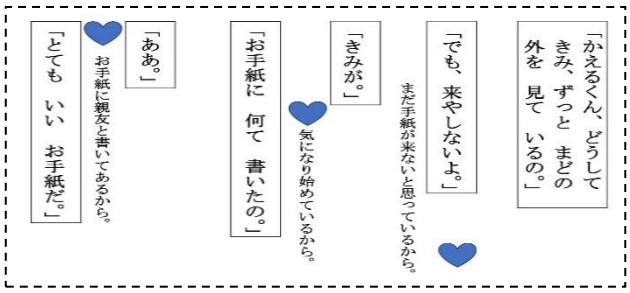
研究内容２　「私・ぼくも」や「私・ぼくだったら」という言葉を用いて、人物の行動について具体的に想像したことをまとめている姿を価値付けることで、本単元で身に付けさせたい言葉の力「自分と比べて読む」を自覚させたかったが、全員が自覚することができたとは言い難い。そのため、今後は、言語活動をした結果、どのようなことが分かったのかを認識させるための手立てを検討していきたい。

御意見・御質問はこちら（研究部アドレス）
miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

○　本時の目標

第４場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。

○　本時の指導過程

学習活動及び学習内容	「自律的に学ぶ」ための手立て
1　本時の学習について話し合う。 ○　第４場面の内容の大体 ○　事前アンケートの結果 ・「私は、サプライズが台無しになるから、先に知ってしまうと悲しいけど、かえるくんとがまくんは幸せな気持ちになっているな。」　等 ○　学習問題（本時の問い） なぜ、がまくんは幸せな気持ちになったのだろう。	○　サプライズを先に知ったときの気持ちについての事前アンケートの結果を提示し、がまくんの気持ちとの違いに気付いた発言を引き出すことで、学習計画上の本時の問いを再確認できるようにする。
2　解決の見通しをもつ。 ○　幸せな気持ちになった理由（考え） ○　解決方法 ・　音読や動作化をする。 ・　似た出来事を思い出す。 ・　人物と自分の気持ちを比べる。　等	○　これまでどのように学習問題を解決してきたのか問い、解決方法を共有することで、本時の学習問題を解決するための見通しをもち、自分なりの方法を選択することができるようにする。
3　人物の行動を具体的に想像し、自分の考えを伝え合う。 ○　がまくんの行動の理由  ・「『お手紙に何て書いたの。』という会話文から、がまくんが手紙を気になり始めていることが分かるよ。」 ・「『ああ。』は幸せそうに読んでみよう。」　等	○　がまくんの会話文毎に読み方を変えている子どもに、どの文を見てそのような読み方をしたのか問うことで、仲間の読み方をきっかけに人物の行動の理由を想像することができるようにする。 ○　ペープサートやがまくんについての会話文のみを書いた学習プリント等を準備することで、仲間と考えを伝え合う際に活用し、自分の考えを再構成することができるようにする。 ○　考えを全体で共有する際には、叙述をどのように読むか、またなぜそのような読み方をしたのかを問うことで、音読を基に人物の行動の理由を想像することができるようにする。 ○　登場人物の行動の理由を想像することに困り感を抱く子どもには、学習活動「２」で確認した解決方法のうちどの方法がよいか問うことで、自分なりの方法を選択し、考えをもつことができるようにする。
4　具体的に想像したことを、人物に伝える（★）。 ○　具体的に想像したこと（確かな考え） ・　がまくんは、かえるくんからの手紙に親友と書いてあったから幸せになったんだね。私も、仲良しな友達に親友と言ってもらうと嬉しい気持ちになるよ。 ・　かえるくんが手紙の内容を教えたから、がまくんは幸せな気持ちになったよ。ぼくだったら、悲しい気持ちになるけど、早く伝えたかったんだね。　等	○　自分が選んだ人物に、手紙や動画等で、人物の行動について具体的に想像したことを伝える時間を設けることで、本時の問いに対する考えを確かにすることができるようにする。
5　本時の学習をふりかえる。 ○　ふりかえり ・　できるようになったこと ・　次にがんばりたいこと	○　人物と自分の気持ちとを比べて、人物の行動について具体的に想像したことをまとめている姿を価値付けることで、言葉の力「自分と比べて読む」を自覚することができるようにする。

○　本時の評価規準

第４場面の様子に着目して、幸せな気持ちのがまくんの行動を具体的に想像している。

（思考・判断・表現）【記述分析・行動観察】